

農学生命科学部

第19回 研究推進セミナー

【第34回 発生・生殖生物学研究室コロキウム 共催】

【新学術領域研究 配偶子産生制御 共催】

動物における生殖細胞形成機構

演者：小林 悟 先生

筑波大学

生命領域学際研究センター・教授

日時：平成29年12月 7日（木）

17:40~19:10

場所：弘前大学農学生命科学部402室



生殖細胞は、次世代へ遺伝情報を正確に伝達できる細胞であり、生物にとって最も重要な細胞の一つです。本セミナーでは、この生殖細胞が形成される機構に関する成果について紹介したいと思います。特に、私たちがショウジョウバエを用いて行っている研究のうち、1) 始原生殖細胞の中で体細胞分化に必要な遺伝子発現を抑制する機構、2) 生殖細胞特異的な遺伝子発現を活性化する機構、さらに、3) 生殖細胞の性決定機構や、4) 「質の良い生殖細胞」だけを次代に残す品質管理機構に焦点を当てた研究について紹介します。さらに、マウスなど他の動物と共通する機構についても考察したいと思います。

参考文献

M. Hayashi et al. (2017) Conserved role of Ovo in germline development in mouse and *Drosophila* Sci. Rep., 7, 40056.

S. Sugimori et al. (2017) Maternal Nanos-dependent RNA stabilization in the primordial germ cells of *Drosophila* embryos. DGD (in press)

K. Hashiyama et al. (2011) *Drosophila* Sex lethal Gene Initiates Female Development in Germline Progenitors. Science, 333, 885-888.

Y. Hayashi et al. (2004) Nanos suppresses somatic cell fate in *Drosophila* germline. PNAS. 101, 10338-10342.

S. Kobayashi et al. (1996) Essential role of the posterior morphogen nanos for germline development in *Drosophila*. Nature 380, 708-711.

主催：農学生命科学部生物学科 発生・生殖生物学研究室

小林一也（内線3587 kobkyram@hirosaki-u.ac.jp）

共催：研究推進委員会 学部後援会